

「原爆文学研究」投稿規定

一、原爆文学研究会の機関誌として会員からの意欲的な投稿を歓迎します。会員以外の原稿掲載については編集委員会でご判断します。

二、投稿に際しては、住所・電話番号を明記の上お送り下さい。原稿は返却いたしませんので、お手元に控えをお残し下さい。

三、パソコン等を使用の場合はプリントアウト原稿にデータファイルを添付の上お送り下さい。

四、原稿は、新字のあるものはなるべく新字を用い、注の形式等は既刊のものに準拠してください。

五、投稿者は各自の原稿一頁(機関誌の書式)につき一〇〇〇円を発行経費として負担することをご了承下さい。

六、次号(16号)の締切は、二〇一七年九月三〇日です。

「原爆文学研究」編集委員

岡村幸宣 川口隆行 楠田剛士 坂口博
中野和典(編集長) 長野秀樹 野坂昭雄
東村岳史 村上陽子 山本昭宏 李文茹

編集後記

今号には二本の自由投稿論文、一本の特集論文、二本の書評、一本のエッセイを掲載しています。特集「国際会議…核・原爆と表象／文学」は、昨年二月に開催した国際会議を誌面化したものです。ご寄稿いただきました登壇者のみなさまに感謝いたします。今回は複数の言

語による原稿を日本語で誌面化するために翻訳者のみなさまにもご尽力いただきました。本当にありがとございました。

特集「ブックレビュー「戦後70年」」は、昨年出版された複数の研究書を書評として取り上げて特集にした、本誌としては初めての試みです。いわゆる「原爆文学」を直接の題材としたもの以外の研究書も取り上げています。研究書の発行年月日順に掲載していますが、個々の書評が響き合って何らかの「流れ」や「重なり」が見えてくることを願っています。そこに「戦後70年」という視点から浮かび上がる大きな問題を探る手がかりがあると思うからです。

例年一二月に発行していた本誌を今回八月に発行したのには、五〇回目の研究会を開催した節目に運営体制を大きく見なおしたこと等の理由があります。この節目に本会の企画・運営を行う第二期世話人会を発足し(メンバーは上記編集委員と同じ)、代表世話人の役割も長野秀樹氏から川口隆行氏に交代することになりました。

私も創刊号から本誌の編集長を務めて参りましたが、今号をもってその役割を離れることとなります。いずれも本会の世代交代をより円滑に進め、本会をより公器として機能させるための交代です。二〇〇四年から一二年にわたり代表をお務めいただきました長野秀樹氏、第一期の世話人をお務めいただきました篠崎美生子氏・高野吾朗氏・松永京子氏、これまでの運営体制を支えていただきました会員や読者のみなさまにこの場を借りて御礼申し上げます。(中野和典)

原爆文学研究 15

二〇一六年八月三十一日発行

編集 原爆文学研究会

八四〇六〇

福岡市城南区七隈八一一九―一

福岡大学人文学部

中野和典研究室気付

発行

八〇〇三三

福岡市中央区白金二一九―二

TEL 九三五〇〇六七

FAX 九二五四四四二

定価 一、二〇〇円(本体一、一一二円)

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。